

TATEYAMA

NOTAM

'96-Vol.4

Hummingbird P.G.C Communication Note.

◆ '97雪祭り開催

◆ 特集！！
富山県連・大和理事長に聞く！
「県連は何をするところぞ」

◆ 会員探訪・森田 孝一

◆ 平成8年度
「事故報告」

◆ Information

97 雪祭り開催！！

Report&Photo:K.Fujino

ハミングバードの冬恒例のイベントである「スラローム大会」が、今年からは「雪祭り」として3月1日に開催された。当日は、前日に「春一番」をもたらした低気圧が前線を引っ提げて北陸地方を通過し、一時的に冬型の気圧配置が強まり朝から雨模様のあいにくの天気となってしまったが、競技が始まる夕方には雨は雪に変わって競技の準備完了！と言ったところだろうか？

競技はスキーの部・スノーボードの部の2部門で競われた。グレンデコンディションは雨のせいでは決して良いとは言えないが、選手はそれぞれの思惑のラインをトレースする為に必死の形相？で、中には「奇声」を発して滑る選手も出現した。

競技はこれだけではなく、今年から採用された「団体ソリレース」が始まった。これは、1チーム5名で編成された5チームが、その名誉の為に速さを競うものでスタート地点から前方15m?地点に立てられた折り返し地点までソリを引っ張ってグレンデを登り、帰りはソリに乗ってスタート地点に戻って次の選手にタッチするリレー方式で行われた。登りではさほど差がつかないものの、下りは緩斜面の為にソリが思うようにすべらず、サーファー乗り状態で漕ぐ者続出！！中には飛び乗ってソリをぶっ壊したつわものもいた。

結局競技の方は、46歳からスキーを始めたと言いながら見事に今年も優勝した寺内選手、ボードではイントラの貫禄十分の清水選手が優勝した。また、団体ソリレースでは、平田透・並川・大和・寺内・鎌仲組が優勝した。

その後の宴会でも大いに盛り上がり、夜遅くまで話に花が咲いたようだった。来年は、あなたも参加してみませんか？

-----スキーの部-----ボードの部-----

順位	選手名	Time	順位	選手名	Time
1	寺内	22"92	1	*清水	29"22
2	佐野	23"39	2	島倉	31"99
3	関沢	23"50	3	*若林	34"51
4	鎌仲	23"96	4	森田	35"69
5	大和信	25"35	5	本馬	36"22
6	大和隆	25"93	6	吉野	36"36



ウルトラマンではない！団体ソリレースにて奮闘する選手達！！（写真上）

優勝のお二人！！

左はスキーの部優勝者、寺内選手。
右はボードの部優勝者、清水選手。
おめでとう！！（写真左）

富山県フライヤー連盟・大和理事長に聞く！！

「県連は何をするところぞ！！」

県連。JHFが社団化されるにあたり全国12地区連盟が解体され、各都道府県にそれぞれ独立した組織が作られた。私達の所属する富山県フライヤー連盟も、正式には2年前に県連の規約がJHFに認められ、県連として活動を開始した。

今回は、その富山県フライヤー連盟の理事長である大和隆三氏に、県連の事についてあれこれ質問した内容を中心に、編集部意見を折り混ぜながら紹介していこう！！

(県連やJHFについての詳しい内容は、パラワールド4月号に掲載されているのでそちらをご覧ください！)



大和富山県連理事長

1. 県連が為すべき役割について考える

県連とは一体何をする組織・団体なのだろうか？本来は、パラやハング、モーターパラやハング等を含めたスカイスポーツ全体の発展を推進する機関であり、地域行政と密着したつながりを持ち、JHFと一般フライヤーとのパイプ役でもある。そんなイメージを持ってしまふのは私だけだろうか？

では、大和氏はどのようなビジョンを持って県連を運営し、私達フライヤーを導こうとしているのかを質問してみた。

大和...

富山県のスカイスポーツとしての歴史は、全国的に見ると大変に遅れていると思います。と言いますのも、スカイスポーツを始めたくてもその環境(スクール、エリアを管理する体制・指導者)が整っていない為ハングやパラを他県のスクールへ出かけて習っていた...、と言うのが富山県のスカイスポーツの歴史です。選手としては、全国のトップクラスの人を生み出して日本代表選手として世界へ送り出しています。しかしながら、継続的には各フライヤーと他県のフライヤー・エリアとの結び付きが強く、県内のフライヤー・クラブ同士の交流が非常に少なかったのが現状だと思います。

このような現状を発展的に解消する為に、エリア管理者、クラブ指導者、スクール指導者などの交流を盛んにして、富山県のスカイスポーツの発展を害している問題点を探りだし、技術的な事柄を含めた交流の場を数多く作る事が大切ではないかと考えています。

2. 現在の問題点について考える

県連の抱える問題はそれぞれだ。ある県連はフライヤーの加入者不足に悩み、ある県連では偏った役員構成による偏った運営で泣いているフライヤーもいると聞く。

富山県連は現在、どのような問題を抱えているのだろうか？

大和...

昨年4月から理事長を引き受けて1年になりますが、私自身が考えていたより、その運営が全国レベルより遅れていた事が第一に挙げられます。富山県フライヤー連盟として独立してから6年目を迎えようとしています、

- 1) 総会、理事会が定期的・組織的に開催されていなかった
- 2) 財政が破綻状態にありながら、なんら対策を講じていなかった
- 3) 連盟の理事会が、その機能を有効に発揮していなかった
- 4) 連盟の運営が不透明で、フライヤーの希望にかなっていなかった

と言うような運営面での問題点があったと思っています。また、富山県在住のフライヤー登録者を掌握していない事から、モーターパラ等の問題に対応出来ずにいます。これらは一刻も早く実態を把握する必要があると考えています。

3. 県連のアピール

県連を発展させる為には、私達一般フライヤーの意識や協力が必要不可欠だ。しかし、その為には私達も県連をよくしらなければならない。富山県連は私達にどのようなメッセージをくれるのだろうか？

大和...

過去二度もパラグライダー日本選手権が開催されたように、日本屈指のらいちょうバレーエリアを持つ山岳県で、北西の安定した風と海拔1000m~3000mまでの地形はスカイスポーツを楽しむ我々フライヤーにとっては非常に恵まれた環境だと思います。

昨年は、パラグライダー、ハンググライダーの富山県選手権プレ大会を開催し、今年は第1回富山県選手権を開催する事にしています。

県内に在住しているすべてのスカイスポーツを愛し、楽しんでいるみなさん、素晴らしい空の散策を楽しみたいと思っているみなさん、私達と一緒に富山県フライヤー連盟に結集して、スカイスポーツの社会的地位の向上と、楽しく安全なスカイスポーツを目指して活動しましょう！！

4. フライヤーに言いたいこと！！

県連の仕事や役割は、私達フライヤーの為でありフライヤーを守る為であると言えるだろう。では、その活動を支える為には私達はもっと真剣に「スカイスポーツ」について考えなければならないのではないか？

大和...

今、私達フライヤーは航空法によって法的には規制をされています。しかし、一旦足が大地から離れた瞬間より、引力に逆らって自分の判断と技術で誰にも邪魔されることなく、自由に大空の散策を楽しむ事が出来ます。それがスカイスポーツの醍醐味です。

しかし、技量の未熟、機体の不慣れ・過信・気象の変化への対応、判断ミス、奴が飛んだから俺も、他人の進言を聞かない、等々。過去にパイオニア達が経験して来た事が昨年も生かされなかった事は大変に残念な事です。

スカイスポーツは「自己規制のスポーツ」と言われています。自己規制の出来ない人はスカ

イスポーツをやるべきではないと思っています。想像して下さい。自分の家の上をパラグライダー飛んで来たとしたら？突然に自分の庭にパラが舞い降りて来たら？丹精して育てた杉の枝を芯を無残にも切り落とされたら？あなたならどのように思いますか？今迄我々の仲間がそんな事をしてはいないでしょうか。

そのために私達は、私達の為のエリアルールを作り、行政から、世間から、規制の網がかけられないように懸命に努力をしているのです。

5 . J H F と の 関 係 (連 携) に つ い て

冒頭でも触れたが、県連とJHFは切り離して考える事は出来ない、と私は考えている。富山県連はJHFとの関係についてどのように考えているのだろうか？

大和...

JHFは2年前に社団化され、日本のスポーツ界では一応スポーツ団体としての資格を得る事が出来ましたが、問題は山積しています。JHFの改革については、今意見を述べるのは差し控えますが、JHFから下部団体、一般フライヤーに上からの網を掛けないように、財政不足の名目で色々和金集めの手段を考えないように！と言っておきたい。

一般のフライヤーからはフライヤー登録、A証、B証、NP証、P証、XC証等の名目でJHFに金を集めながら、下部の県連盟には財政的な手当もせず連盟会員の募集をさせ、会員が県連に支払う会費のみが県連の財源であり、各県連は大変な財政難の状態になっています。JHFの社団化により文部省の干渉を許す結果になり、また、それに伴う下部組織である県連の規約の制定にもJHFの規約に準ずる指導をして、県連の自主性を損なう結果になっています。お金を出さないなら口も出さな！と言いたい！

しかし、JHFはスカイスポーツの全国組織ですから、私達県連もその決定には従うしかありませんが、上からの決定や規制ではなく、下から上へ積み上げる組織の運営にして欲しいと思います。

6 . ハ ミ ン グ バ ー ド の 会 員 へ メ ッ セ ー ジ

県連の理事長は、今年度(96年度)から私達のクラブの会長でもある大和氏が就任している。最後に、県連理事長の立場として私達会員にメッセージをお願いした。

大和...

私が今一番クラブ員のみなさんに望みたい事は、エリアの開発・維持の事です。地権者、地域住民のみなさん、スキー場の経営者などの理解と了解のもとで初めてエリアの開設が可能になり、更にエリアを管理する人がいてようやく私達はフライトを楽しむ事が出来る訳で、エリア管理者は生活の全てを賭けて必死になってエリア内での事故や問題が起きないように頑張ってくれています。

私達自身がルールを作り、関係者に理解を求め、且つ私達フライヤーが最大限フライトを楽しめるように自主規制を形で定めたのがエリアルールです。どうでしょうか？あなた自身、エリアルールの真の意味を理解していたでしょうか？

今年は絶対にルール違反や事故のない一年にしたいものですね。

第4回

「ちゃんとルールを守れば
何の危険もない！」

森田 孝一

Koichi Morita

あっ、吉永小百合が飛んだ！

TN...パラを始めたきっかけは何でしょうか？

森田...最初ねえ、海のスポーツに憧れてたんです。サーフィンとか。その前に水泳を始めたんですが、水泳を始めたってのは富山に昭和60年に転勤してきたんですけど、富山は魚が旨いですから1年で10Kgも太ってしまったんです。

TN...1年で10Kgですか？

森田...ええっ。その頃はゴルフなんかもやってたんですが、歩くのがきつくなって来て(笑)。こりゃ痩せなきゃだめだと思って水泳を始めたんです。でも、富山って自然がすごいじゃないですか。だからもっと面白いスポーツや遊びがあるはずだと思って海へ行ったらウインドサーフィンをやってる。それで「ウインドやりたいなー！」と思ってたところでTVのコマーシャルで吉永小百合がパラグライダーをやっているのを見たんです。その時「あっ、吉永小百合が飛んだ！これはイイ！」と思ったんです。そもそもパラグライダーを知ったのは、私の後輩が尾神岳でB級をとって来たんですけど、尾神でやってるんだから富山でもやってるだろうと思って探してみたら丁度立山で扇沢さんがスクールをやってたんで入校した訳です。

TN...じゃあ、パラを始めてかなりになりますね。

森田...パラを始めて何年って言うよりも、まず富山に来て、昭和60年に富山にきたんだから12年位になるんです。それから水泳を始めて11年くらいになるんです。その後、富山に来て6年目か7年目にパラをやり始めたんです。

TN...じゃあクラブでも古株ですね。

森田...そうですね。僕達が講習してた頃は、ゴンドラの第3ゲレンデの急斜面をかけ降りて傷だらけ？で飛んでた時代ですから。いまからじゃ信じられないでしょうがあの急斜面と同じくらいの滑空角でグライダーが浮いてた感じですから。でも、空への憧れがあったから(勿論今もあります)飛ぶ事ができたんでしょうね。

ゴンドラの駅舎の横で寝る？！

TN...森田さんは一時期物凄く飛びまくった事があったと聞きましたが？

森田...ええ。仕事を辞めて夜のバイト？に精を出していた頃ですが、バイトが終わるとエリアに来るん

ですけどまだ暗いのでゴンドラの駅舎の横に車を止めてしばらく寝るんです。朝10時頃には目が覚めますから、それからおもむろに飛びはじめのんです。そんな事を1年位やってました。だから当時の僕の同期の中では一番飛んでたんじゃないでしょうか？当時はまだB級生だったので「まだP証くれないんですか？」とよく扇沢さんに言ってましたよ。やっぱりこれだけ飛んでるんだから同期の中ではウマイ方だと？！

T N...コンペでは優勝されたこともあるそうですが？

森田...ええっ。実はニセコで大会があって富山からも何人か一緒に参加したんですが、その時初めて出た大会でいきなり優勝してしまったんです。これはうれしかった！！

T N...すごいですねえ。

森田...それに、北海道っていいとこなんですよ。大会で飛んだ時にいよいよ降りなくちゃならなくなつたんですけど、一面がじゃがいも畑なんです。仕方ないのでそこへ降ろしたんですけど、ファイナルアプローチ中に子供がこっちに向かって走ってくるんですよ。

T N...珍しかったんでしょうか？

森田...それもあると思うんですけど、降りた途端に「ねえ、どっから来たの？ねえ！」って聞いてくるんです。そのうちにじゃがいもを収穫している家の人までやってきて「アンヌプリからとんできたんでしょう？すごいねえ。よくここまで飛んで来たねえ」って誉めてくれるんです。見ず知らずの僕に、しかも畑に無断で降りてきた奴にこんなに優しくしてくれるんですよ。

T N...なんか人情味を感じますね。

森田...それでね。「あんたどっから来たの？」って言うんで「富山からです」って答えたんですよ。するとじゃがいもをそれこそ10Kgくらい袋に入れてくれるんです。「持ってけ持ってけ！」って。

T N...もらって来たんですか？

森田...その時はもらってきませんでした。荷物もいっぱいあったし。でも、収穫したてのじゃがいもってうまいんですよ。今思えばもったいなかったかな？とも思いますけど...

続けてるとどんどん仲間が増えるのがうれしい！

T N...では、パラを始めて良かった事とか感動した出来事なんかありましたか？

森田...やはりパラを通じて知り合った仲間が何よりでしょうね。勿論、続ける人、辞める人等色々ある訳ですけど、続ける事によってどんどん新しい仲間が増え続けてきた事が良かったと思ってます。

T N...やはり色々事情があって途中で辞めてしまう人もいる中で、森田さんから「どうすればパラを楽しく続ける事ができるのか」を一言お願いします。

森田...やっぱり長くやって思うんですけど、エリアが狭くなってきたっていうのも一つの要因ではないかと思います。同じ事を繰り返して「楽しくない」っていうか。何かそんなことがあるように思います。それとこれはまた別の話だけど、僕の水泳関係の年配の方なんですけど以前からパラに興味があって僕もその度に「一度来て下さいよ」って誘ってたんだけど、ある時別の所から情報入手してきて「あれは足を骨折するスポーツだ。よく若い女性が骨折するらしい。だから私はやらない！」って言うんです。悔しかったですよ。でも、そうじゃなくて「ちゃんとルールを守っていれば何の危険もないし、こんなに素晴らしいスポーツはない」って言うんですけどなかなか判ってもらえない。「パラは重力に逆らって？空を飛ぶ。地に足の着かないものはダメだ」みたいな。でも、確かにそういった特殊性はあるにせよ、多かれ少なかれどんな物にだって危

険ってあるでしょう。スキーやボードだってよく捻挫したり骨折したりする訳だし。みんながちょっとしたルールやマナーを守る事で事故や誤解が防げるって思うんだけどね。

T N... やっぱり、どんなにいいことを言っても、いざ目の前で誰かが怪我したりすればこれから始めようと思ってる人は「やっぱり危険なスポーツなんだ！」って思うでしょうね。

森田... そう。だから今パラを楽しんでる僕等がそうならないように「安全に・楽しく」飛ばないと新しい人は入って来ないし長続きもしないんじゃないですか？

全国で昔の仲間に逢いたい

T N... 森田さんの目標は？

森田... 目標は、勿論自分も飛び続けて、みんなと協力してエリアをどんどん広げて行けたらいいと思っています。そして、日本全国を飛び歩いて昔の仲間に逢いたいです。みんないろんな所に行ってますから。

T N... じゃあ、これからも後から続く人達のためにも自分のためにも、大いにパラを楽しんで下さい。どうもありがとうございました。



@プロフィール@

氏名	: 森田 孝一 Koichi Morita
年齢	: ?
飛行時間	: 約 2 0 0 時間
使用機体	: NOVA-PHANTOM
目標	: 日本全国で昔の仲間に逢いたい！！

Team-C の



大台日記



Report:K.Fujino

96年PGナショナルポイント戦も無事終了し、2年間にわたって争われた世界選手権の出場者も決定した。そして、97年PGナショナルポイント戦はもう始まっている。昨年はTeam-Cメンバーも意気込んでナショナル戦に参戦、いくつかの大会を転戦したものの結果は振るわなかった。そこで、今シーズンは早い時期から闘う準備を整え、万全の体制で望みたいと思っている。今年からナショナルポイントリーグのルールも一部改正されレース自体に変化が起こる可能性もある。今回、この新しいナショナルポイントルールを通してもう一度ナショナルポイントリーグについて理解を深めるために勉強しようと思う。

ナショナルポイントリーグとは？

そもそもナショナルポイントリーグとは何なのか？はっきり言って、日本のPGパイロットの中から世界に通用する選手を選出、2年に一度開催される世界選手権に日本代表選手として出場する選手を決めるためのものだ。選手は2年間に渡り、たった7名（男子5名、女子2名）の出場権をめぐる闘いだ。その選出過程は、年間に数十戦と行われるポイント戦に出場し、ポイントを獲得、その年の最もポイントの高かった3つの大会のポイント（同一エリアは1つのみ）の合計と、前年度の獲得ポイントの50%を合計したポイントの高かった者を代表として選ぶ。しかも、昨年までは各大会でポイントをとる為には最低でも30位以内に入らなければならなかったのだ。また、各大会にも成立したタスク距離や出場選手のレベルに応じて係数がかけられ、同じ優勝でもポイントは大きく異なる場合がある。こう言った理由で一昨年からのタスク距離がどんどん大きく（長く）なる傾向にあった。また、大きなタスクが組めるエリアでの大会は有力選手も多く集まり、必然的に大会係数も大きくなった。こうなると、大会初心者はなかなか出る幕がないのがナショナルリーグの現状だ。この辺りの問題解決も含めて今回ルールが改正されたわけだ。

大会係数

大会係数とは、その大会で成立したタスクをランク付けして決定されるもので、従来は10Km以上をC級、20Km以上をB級、30Km以上をA級、50Km以上をS級、70Km以上をU級として規定し、それぞれの係数をC=1.02、B=1.05、A=1.1、S=1.2、U=1.3として計算する。これをCF係数と言う。例えば、ある大会でA級2本、C級1本が成立した場合は、

$$1.1 \times 1.1 \times 1.02 = 1.23$$

となり、これを大会係数CFとしていた。（ただし、最大2とする）今年からは計算方法は同様だがタスクのランク距離が変更になった。タスク距離は、20Km級、30Km級、40Km級、50Km級

、60 Km級、70 Km級と細分化され、10 Kmタスクが廃止された。係数は、20 Km級 = 1.05、
30 Km級 = 1.1、40 Km級 = 1.15、50 Km級 = 1.2、60 Km級 = 1.25、
70 Km級 = 1.3となった。

シード係数

シード係数とは、その大会に参加したシード選手に与えられた係数で、その大会の参加選手のレベルや参加選手によって大会のレベルが引き上げられる（難易度が高い）との理論から採用された。（と勝手に解釈している）シード選手には前年度ポイントシステムランキング1位～10位までの選手が2、11位から30位までの選手が1（それぞれ1名につき）となり、その大会に参加したシード選手の人数によって決まる。例えば、10位までの選手が5人、11位から30位までの選手が19人参加したとすると、

シード係数 $S = (5 \times 2) + (19 \times 1) = 29$ となる。

ちなみにPWCランキング30位までを3とする。

フライトのミニマム距離

今年からタスクにおけるミニマム距離も変更された。従来は、そのエリアのテイクオフから通常使用するランディングまでの標高差の8倍（ $L/D8$ ）がミニマムとされていた。立山の場合は、極楽坂T.OからLD1までの高度差が約500mであるので、 $500m \times 8 = 4Km$ となる。しかし、今年からは設定されたタスク距離の30%以上でそのエリアの標高差の12倍以上（ $L/D12$ ）となった。これは、50 Kmのタスクを立山で行った場合は、 $L/D12$ では6 Kmであるが、タスク距離の30%を満たす必要があるのでミニマム距離15 Kmとなる。これは、今年の大会のタスク設定において大変重要な要素になる。

大会でのポイント計算方法

先程も述べたが、昨年までは大会でポイントを取る為には30位以内に入らなければならなかった。今年からは、大会の参加者の60%の選手にポイントが与えられるように変更された。通常、大会の募集人員は80名であるから、48位まではポイントが与えられる事になる。また、更なる変更点として女子枠が設けられた。

大会でのポイントは勿論、ポイントシステムそのものにも女子だけの選考基準が新たに整備された。女子枠での大会のポイントは、女子が10名以上参加している場合は1位 = 10点、2位 = 7点、3位 = 5点、4位 = 3点、5位 = 2点、6位 = 1点となり、5名以上10名未満の場合は1位 = 5点、2位 = 3点、3位 = 1点が与えられる。また、これらのポイントで年間5大会を集計して女子ポイントランキングを決定する事になる。実際のポイントの計算式は、解説すると繁雑になるので割愛させて頂く。（知りたい方は直接筆者に訪ねて下さい）

ルール改正による大会への影響について

このルール改正により、今年のレースはどのような影響を受けるのか？私なりに考えた意見を述べさせて頂く。

ポイント底辺層の拡大

まず、選手の60%がポイントを取る事が出来るので、今迄ポイント圏内まであと一步だった選手には朗報であろう。私も含めてではあるが、30位の壁はなかなか厚い。そういった中で他へ遠征に行っても十分ポイントを狙う事が可能になって来た。底辺層のやる気が復活する効果が見込められる。

(大会に出てもポイントがとれないと結構やってられなくなるもんなのです)

ビッグタスクの縮小化

C級の廃止やミニマム規定の変更による最も大きな影響を受けるのはズバリタスクの大型化の歯止めである。近年50Kmや70Kmの大型タスクがもはや当たり前になって来た感があるが、それに見合わないエリアやコンディションでは競技が成立しなくなる可能性が高い。条件、参加選手の技量しかも一部のトップのみならず、大会参加者の50%は視野に入れたタスク設定を行わないと「トップはゴールしたけどミニマムをクリアした選手が規定に満たないのでキャンセル」なんてことも十分起こりうる。大き過ぎず、そして小さ過ぎず、がポイントになる。

レースのスピード化

タスクが大きく出来ないとなれば、レースのポイントは距離からスピードへ焦点が移る。30Kmや40Kmが成立するコンディションであれば、今のポイント戦常連者ならば相当数がゴールするだろう。この中で勝つ為には早くゴールしなければならないのだ。この傾向はまだまだ一部のトップ選手が繰り広げる光景だと思うが、やがて大会の流れそのものがスピード重視のスタイルに変化してくるだろう。

97年ポイントシステムを戦う為には？

ハッキリ言って、作戦は従来と変わらない。私達のレベルでしなければならない事は、少しでもゴールに近づく事である。あせって早く飛んでタコるよりも、ゆっくり飛んでゴールした方が良いに決まっている。それがたとえ30位であっても問題はない。ゴールして初めてそのレースの全てを組み立てて自分なりにフライトしたと言えるからだ。その中からまた新たな課題を見つけて克服すればいいのだ。ポイントは取り易くなったが、やらなければならない事は同じである。それを見極めながら97年のポイント戦を戦って行こうと思っている。

96年PG-ポイントシステム

クラブ員最終成績

総合順位	氏名	総合P
3	扇澤 郁	230.5
69	斉藤 直行	43.2
137	藤野 光一	11.1
142	阪本 猛	8.5



97年シーズンも、ぜひ頑張ってください！！

また、このような光景が見られる季節になってきた！！

シーズン直前REPORT

平成8年度・立山山麓PGエリア クラブ・スクール、事故の実態！！

Report:T.Sekizawa

パラグライダーの本格的シーズンもいよいよ！でも、その前にこれだけは知っておいて下さい。
昨年一年間でクラブ員・スクール生による事故が残念ながら発生しています。会報編集部はこの事実をクラブ員全員が共通の認識の元に理解し、同じ事故を繰り返さない事を望んでいます。
そこで、JMB立山PGスクール・関沢氏の協力により、昨年発生したクラブ員・スクール生の事故報告を分析し、「今年こそは無事故でフライトしてもらえるように」とこのレポートを企画しました。
他人事とは思わずに、今年のフライトに役立てて下さい！！

事例1 Y君（B級、フライト本数70本）

状況：展望台からテイクオフする際に、立ち上げからテイクオフ中止の判断をした。しかし、その後下のマットの所へ急斜面を小走りに降りた時、タイヤに足をとられ、半月板及び靭帯を損傷した。

原因：展望台はその構造上、特に弱風～無風時のテイクオフ中止の判断を早くする必要があると考えられる。今回は判断が遅れたのが主要原因であろうと考えられる。

対策：過去にこれと同様の怪我は数件発生している。これらを回避するには、十分な注意力と早めの判断による中止動作、場合によっては展望台でのテイクオフを中止し、極楽坂への移動も考える広い視野を持つ事が必要だ。立ち上げ練習はそれ以前の重要な課題であろう。

また、強風時には過去に怪我や事故はないものの、横や後方へ流されてグライダーを大破させた事が数件発生している。これこそはライズアップ練習によって完全に克服出来る問題である。いずれにせよ、その時々状況により各自の判断（ウェイティング・移動）や正しいサポート（OK！STOP！）等が求められていると言える。

（立山山麓では展望台テイクオフの怪我が最も多い！！）

事例2 Yさん（B級、フライト本数30本）

状況：飛行中、サーマル山で斜面に近づきすぎでツリーランした。無線交信後救助に向かった。現場に到着するや本人は地面に横たわっており動けない様子であった。聞けば、木から自力で降りようとして途中から落下したと言う。圧迫骨折。

原因：本来、動けない場合は確保をとって救助を待つべきであるが、自力で降りようとしたのが最大の原因である。まさに“しなくてもよい怪我”をしたと言える。

対策：高い木にツリーランした場合、あるいは急斜面で行動する場合は基本的にロープを使用し確保する必要がある。動けない時は確保をとって救助を待つべきである。こういう時、助けてもらう事は恥ではない。しかし、日頃から自己確保やエイト環での下降技術くらいは忘れないように練習する事が必要と言える。

事例3 S君（パイロット）

状況：大辻山からいちょうバレー方向へのリターンをした時に、メインランディングまでは届かない高度であった。その時に、いちょうバレーにより近い場所に降りようとして、やや狭い芝地にアプローチする事にしたが、最終アプローチでは思うような沈下が得られず（サーマルにより伸びた？）着地直前に180度旋回を行った。その旋回中にハードランディングとなってしまう、左足を骨折した。

原因：大会の練習中でもあり、また、迎えに来てもらう事を嫌った為に「より近い場所に」と言う心理が強く働き、状況判断を誤らせたと考えられる。日射が強く、地面付近の風向等不安定な状況では、狭い場所へのランディングが困難な事は明白である。冷静な状況判断に欠けた事が最大の原因であると考えられる。

対策：どのような状況であっても、冷静な判断力が発揮出来るようにしなければならない。特にこのケースは「大会の練習中」であったのだが、自分のテーマ・フライトプランを持ち、起こりうる様々な状況に応じたイメージを常に持つ必要がある。また、日頃からイメージトレーニングを行ったり、正確なランディングの練習を心がける事で相当な場面でも対応する事が出来るようになる。いずれにせよ、無理をしないで早めに状況判断を行う事が大切であろう。

事例4 Oさん（パイロット）

状況：フライトツアー時にテイクオフにて受傷。サーマルブローがテイクオフに入っていた時の事故。まさに立ち上げがらテイクオフ直後（高度は2～3m）に機体はフロントダイブ気味で左翼の潰れが発生し、そのまま180度旋回して斜面に衝突し両足を骨折。

原因：立ち上げ時、上昇風に伴う機体のシューティング（フロントダイブ）が発生することは誰でも経験のあることだ。これが過度な場合は当然潰れが発生してしまう。このシューティング中の潰れ（機体が頭上にある時の潰れとは違う）が、即急旋回へと移行する。これが今回の事故原因と言えるだろう。

対策：テイクオフ時・フライト中・ランディング時も含め、ピッチコントロールは重要なものであり、常にグライダーを頭上に安定させた安全な飛行を目指して練習する事が大切。また、テイクオフそのものがサーマルの通路となっているエリアでは特に注意が必要と言える。

事例5 Tさん（パイロット）

状況：まったく通常のエリアコンディションでのランディングで受傷。2～3機でランディングへ進入し、気にしながら高度処理を行っていたのだが、最終ターンから着地する際に足を出さず（出し忘れていた、他機に気をとられた）やや山へ向かったの尻ランディングとなった。この際に軽い圧迫骨折を受傷してしまった。

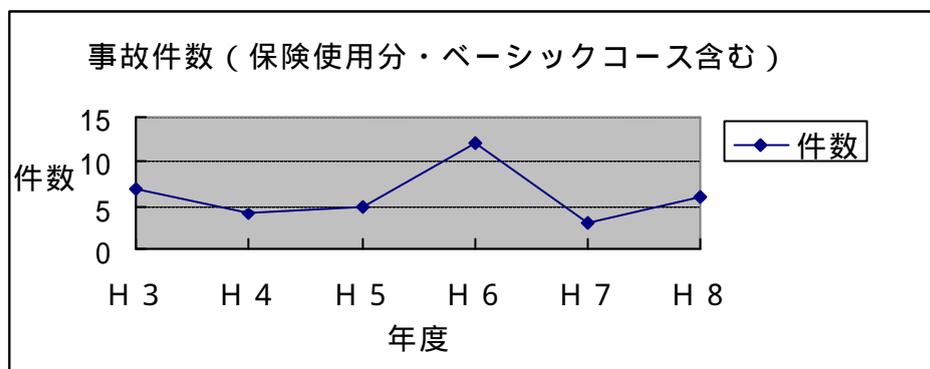
原因：複数機での同時進入となり、周囲に気をとられて早目に足を出さなかった（出せなかった）事が最大の原因と考えられる。更に、斜面に向かって着地したことが結果を悪化させた。

対策：やはり、ランディングでは早目にハーネスから足を出すことが安全な着地には欠かせないものである。また、斜面にランディングする時は、斜面の上に向かって降りる時には衝撃が大きくなることもみなさんは経験からご存知のことと思う。これらを十分に踏まえた上で、日頃からランディングアプローチを行ったり、イメージを持つことが大切。特に、同時進入に

なった場合、周囲を確認しながら安全にアプローチ出来るように練習することも必要であるう。

過去の事故発生件数（保険使用分、ベーシックコース含む）

平成3年... 7件
平成4年... 4件
平成5年... 5件
平成6年... 12件
平成7年... 3件
平成8年... 6件



全体を考察して感じた事

やはり、テイクオフでの事故が多く全体の60%程度を占める。特に展望台での怪我が目立ち、昨年も相変わらず発生している。

- ・無理なテイクオフは絶対にしないこと！！

テイクオフは取り止めても何度でも出来るのだから...

ランディングではパニック等による操作ミスやフォローランディングでの事故がほとんどである。特にツアー等ではランディングの下見は勿論、十分なアプローチイメージを持って安全なフライトを心がけて欲しい！！

安全第一！！
セーフティーフライトで
楽しいシーズンを過ごしましょう！

Information

今シーズンのエリアオープンは4月12日から！！

JMB立山パラグライダースクールの今シーズンの営業は4月12日(土)からとなります。これにあわせてエリアオープンも同日とさせていただきます。4月1日～11日まではエリアクローズとなりますのでご了承ください。

ゴンドラ運休は今のところ未定(3月30日現在)

冬季シーズンからグリーンシーズンへの移行の際に行われるのが「ゴンドラの定期点検による運休」です。例年は5月の連休明けから運休に入っていますが、今年のスケジュールは現在のところ未定です。「4月に定期点検を！」との申し入れは企業局に対して行っていますが何とも言えないのが現状です。決まり次第お知らせします。

平成8年度クラブ総会は4月19日(土)！！

今年度のハミングバードPGCクラブ総会は、4月19日(土)に山野スポーツセンターにて開催される事が決定されました。お忙しいとは存じますが、多数の会員の方の参加をお願いいたします。参加出来ない方は委任状の提出をお願いいたします。また、会報に同封されております資料は必ずご持参下さるようお願いいたします。(当日予備はありません)

日時 : 1997年4月19日(土) 19:00～

場所 : 山野スポーツセンター

議題 : 平成8年度会務報告 / 平成8年度会計報告 / 平成9年度活動計画案
平成9年度予算案 / 平成9年度役員人事案 / その他

参加費 : 宿泊(2食付き) ¥6,000

日帰り ¥2,000

懇親会も予定¥しております。また、宿泊予定者は18:00より夕食がございますので間に合うように会場にお越し下さい。

また、翌日20日は、富山県フライヤー連盟の総会も予定されておりますので、そちらの方も併せてご参加いただけるようお願いいたします。

会報編集をお手伝いしていただける方を求む！！

会報編集部では、会報作りをお手伝いしていただける方を求めています。特に難しいことはありません。身近な話題の提供や、イベント参加のレポートの提供、取材活動、写真提供、アイデア提供等。みなさんの幅広いご意見やご要望に応えられる会報を目指すためにも、意欲のある方は、ぜひ会報編集部までご一報下さい。

みなさんのご協力をお願いいたします。

編集後記 96 Vol.4

平成8年度も終わり、いよいよ待ちに待ったフライトシーズンの到来である。みなさんの中にも「今年
はこんな風に飛びたい」とか「あそこのエリアに行ってみたい」とか、色々目標をお持ちの事と思います。
ぜひ、目的を持った、そして安全で楽しいシーズンにしてください。

この「TATEYAMA NOTAM」も無事1年のスケジュールを終える事が出来ました。みなさん
には原稿の寄稿・ご意見・取材協力をいただき感謝いたしております。今後も「みなさんに楽しんでもら
える会報作り」を目指して頑張りますので引き続きご協力をお願いいたします。

1年間のご愛読ありがとうございました。

(Pikaichi)

現在、就職活動中！！

(もう)

話題の提供・ご意見・原稿の投稿は...

FAX (0762)40-6692 藤野 光一宛
(0764)81-1551 JMB立山パラグライダースクール内
ハミングバードPGC事務局広報宛

ファイルで投稿希望の方は...

3.5インチFD(1.2MBまたは1.44MBフォーマット)にTXT形式で保存された
ファイルを事務局へお持ち下さい！！

電子メールで投稿希望の方は...(インターネット、BBS経由)

以下のアドレスへメールして下さい。

QZI01576@niftyserve.or.jp 藤野 光一宛
mou@ecs.toyama-u.ac.jp 阪本 猛宛

TATEYAMA NOTAM

タテヤマノートム：第4号 1997年3月30日発行

編集発行人
発行所
事務局

藤野 光一、阪本 猛

ハミングバードPGC 広報委員会会報編集部

〒930-14

上新川郡大山町本宮らいちょうバレースキー場 レストランふじ内

JMB立山パラグライダースクール ハミングバードPGC事務局